第2学年7組　国語科学習指導案

平成２９年１０月２７日（金）５校時
高畠町立高畠中学校　２年７組　３１名
授業者　吉川　和宏

１．単元名
根拠を明確にして説得力のある意見文を書こう
教科指導改善策の視点　テーマ　生徒自身が、言葉の力の高まりを実感できる授業

２．単元目標
・事象を的確にとらえ、体育祭の組分けについて、立場とそれを支える根拠を明確にして、構成を工夫しながら校長先生に宛てた意見文を書くことができる。【書くこと】
・書いた文章を読み合い、文章の構成や根拠について意見を交換したことを、自分の文章表現に生かそうとする。【関心・意欲・態度】

３．教材について
国語科学習指導要領第２学年の「書くこと」における目標には「目的や意図に応じて社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫してわかりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。」とある。学校生活や自分の身の回りのことから社会全体に視野を広げ、自分の考えをもつということが、これから中学３年となり、そして社会へと出ていく生徒には意義深い。そのためにも、まずは自分の考えを相手に納得してもらえるように言葉の力を高めることは同様に大切だといえる。
意見を述べる際には、自分の感情だけで意見を押し通したり、相手の立場に思いを巡らせることなく意見を述べたりするだけでは、互いに納得し理解し合うことはできない。相手に自分の意見を伝え、納得してもらうには根拠を明確にするとともに、反論に対する意見を考えることも一つの方法であり、文章として伝える際に効果的な意見文が存在する。
本単元を通し、生徒が文章の様式の特徴を理解するとともに、
①事象を的確にとらえ、それに対する意見をもち、根拠を述べるという論構成を学ぶ。
②反対意見の予想とその対応意見を考える力をつける。
以上の２点を重点として指導したい。特に①の根拠については、客観性や具体性のある内容が書けるよう意識させることで、説得力のある文章はどうあるべきかを考え、その力を身につけさせていきたい。

４．生徒について
「書くこと」についてはこれまで、絵画についての鑑賞文、物語を読んでの感想文、説明的文章の要約文、短歌についての情景文、調べたことをまとめたレポートなど様々な様式の文章を書いてきているが、自分の考えや意見を相手にわかりやすく納得させるような文章を書く経験に乏しいのが現状である。今回意見文を書くことに取り組むことで、自分の意見を相手に納得してもらうためにはわかりやすい根拠が必要であることや、文章の構成が大切であるということを学ばせたい。
また、事実（「である」などで断定する）と意見（「思う」や「だろう」）の書き分け、段落の分け方、文末表現の統一、主語と述語の整合性などの書くスキルにおける観点は教科書 111 ページ「推敲して適切な文章に直す」において学習しているため、本時では説得力を高めるための観点に重点を置く。
これまでの文章を書く際の生徒の学習傾向の類型として、次の２点が挙げられる。
Ａ：自身の語彙力に乏しいため、使用する言葉が安易な表現になりやすい生徒。また、他者の意見や考え（文献やインターネット）から得た情報の引用に終始してしまい、難しい言葉を自分で理解しないまま使用するなど、自分の言葉としてまとめられていない生徒
Ｂ：自分の意見や根拠が具体性や客観性に欠けるため説得力に乏しく、主観的な意見を述べることに終始してしまい、相手目線を意識して考えを書くことが難しい生徒。

５．指導にあたって

テーマ：生徒自身が、言葉の力の高まりを時間できる授業

テーマを達成するために本単元を，以下の３点の視点を意識して構成する。

視点Ⅰ　実生活とのつながりを考えた課題設定

生徒が実際に経験した体育祭における「組の分け方」というテーマで、校長先生宛に意見文を書くという取り組みを通し、相手意識を持ったうえで課題に取り組み、自分の考えを相手に納得してもらえるような意見文の作成に取り組む。

視点Ⅱ　考えの広がりや深まりを実感できる場の設定

自分が書いた意見文を互いに読み合いアドバイスを行うとともに、全体交流の場で説得力を高めるための観点について確認し、自分の文章を振り返る場面を設けることで、自分の文章が高まったり、深まったりする実感を持たせる。

視点Ⅲ　教科の本質に迫るつけたい言葉の力を絞る

相互評価の際に「説得力を高める」ための観点を意識させ、その観点に絞って互いにアドバイスや意見交換を行う。

説得力を高めるための観点

・立場が明確で、一貫性（最初と最後で意見が同じ）があるか。

☆根拠の客観性（自分ひとりの思いになっていないか・客観的数字などがあるか）

☆根拠の具体性（具合例・情報・体験など）

・反対の立場からの意見に触れ、その意見に対する考えがあるか。

特に、今回は☆の「根拠」の妥当性という点を特につけたい言葉の力として扱う。

また、「４．生徒について」で挙げたＡの生徒に対しては、新聞の投書などの他者の意見を「読む」という活動を通すことで、課題に難しさを感じてしまい主体的に学べなくなる可能性があると考え、自分が経験したことについてどう思うかというテーマを設定することで、「書く」という取り組みにスムーズに入ることができるようにする。

Ｂのような生徒に対しては、グループで互いの文章を読み合い、評価の観点を明確にしたうえでアドバイスを行い、自分の意見に説得力を持たせられるようにする。

以上の点を単元の中に組みこむことで、生徒一人ひとりが目標を達成し、言葉の力の高まりを実感できるようにする。

６．単元の指導・評価の計画（６時間扱い，本時４／６時間）

時間	学習活動・内容	評価の計画					
		関	話聞	書	読	言語	具体的な内容【評価の方法】
1	・教師の提示したテーマについて自分の意見をもつ。 ・意見文とその他の文章の様式の違いを確認する。	○		○			(関)テーマに対して意見を持つことができる【観察・発言】(書)意見文の基本的な構成について理解することができる。【ワークシート】
2	・意見文の文章構成(頭括式・尾括式・双括式)を理解し、構成メモを作成する。 ・「体育祭の組み分け」についてのメリット・デメリットを考える。			○			(書)意見文の構成を理解し、構成メモを書くことができる。【ワークシート】
3	・「体育祭の組み分け」についての意見文を書く。 ・互いの意見文についての意見・アドバイスを考える。			○			(書)条件に従って意見文を書くことができる。【意見文】
4 本時	・書いた意見文を読み合い、説得力のある文になっているか意見を述べ合い、推敲する。	○		○			(関)書いた文章を読み合い、説得力を高めるため必要なことを理解しようとすることができる。【観察・話し合い】 (書)友達の意見文を参考に、説得力を高めるための工夫について理解しようとしている。【話し合い・ワークシートやホワイトボードへの記入】
5	・友人との話し合いの中で得たことをもとに、自分の書いた意見文を修正し、完成させる。			○		○	(書)もらった意見を参考に、文を推敲し完成させることができる。【意見文】 (言語)漢字や文法、文末表現の統一や原稿用紙の使い方など作文を書く際の基本的な事項を守って文を書くことができる。【意見文】
6	・修正した互いの意見文を発表し、相互評価をする。 ・自分の文章を振り返り、学んだことを整理する。	○					(関)文の構成や根拠を意識して評価したコメントを書き、より説得力を高めるために必要なことについての学習の振り返りを行うことができる。【ワークシート】

７．本時の指導

（1)目標

より説得力が生まれ、相手を納得させるような意見文にするために、相手の文に対して意見を述べたり、互いの文を読み返したりすることで説得力を高める工夫を理解することができる。

（2)指導課程

時間(分)	学習活動	○教師のはたらきかけ、主な発問 ◇期待する生徒の反応	指導上の留意点(○) 評価(【評価の観点】・方法)
7分	1．課題をつかむ。	○お互いの意見文の説得力を高めよう。 書いた意見文の説得力を高めよう。 ○相手を納得させる意見文に必要なことはなんでしたか。確認しましょう。 説得力を高めるための観点 ・立場が明確で、一貫性（最初と最後で意見が同じ）があるか。 ☆根拠の客観性（自分ひとりの思いになっていないか・客観的数字） ☆根拠の具体性（具合例・情報・体験など） ・反対の立場からからの意見に触れ、その意見に対する考えがあるか。 書くスキル ・立場が明確で、一貫性(最初と最後で意見が同じである)があるか。 ・事実（である　などで断定する）と意見（思う・だろう）のかき分け。 ・段落の分け方、数は適切か。 ・文末表現は統一されているか。 ・誤字脱字はないか。原稿用紙の使い方は適切か。 ・主語と述語の整合性はあるか。 ・一文の長さは適切か。	○本時の流れを掲示し、見通しを持つ。 ○前時の復習をし、観点(キーワード)を確認する。 ・構成　双括式・頭括式・尾括式 ・根拠　客観性・具体性 ・立場の一貫性 ・事実と意見 ○特に☆印について注目させる。 ○書くスキルの観点は教科書１１１ページ「推敲して適切な文章に直す」において学習しているため、本時では説得力を高めるための観点に重点を置く。
3分	2．話し合いの準備をする。	○友達の文に対する意見を考え、付箋に書いたものを利用し、話し合いを行いましょう。 ・話し合いの流れを確認する。 ・事前に書き込んでいた付箋の内容を確認する。 ◇・自分以外の人の考えも書かれている。 ・実体験が入っている。 ・反対意見にも触れていて説得力がある。 ・自分の感想しかないので説得力が弱い。 ・最初と最後で意見がずれてしまっている。	○前時に付箋に意見を書き込んでおく。付箋にはキーワードなどを簡潔に記入し、口頭によって補足して伝えさせる。 良いと思った点　＝　赤 アドバイス・改善点　＝　青 表現・表記面の要素　＝原稿用紙に直接書き込む。
15分	3．互いの意見文について意見を述べる。	○班を作り、班の人の意見文に対する意見を伝え合いましょう。 ・付箋を見ながら話し、意見を伝えたら付箋を相手に渡す。 ・意見文について疑問点があれば質問する。 ・根拠や反論に対する意見をアドバイスする。 ・意見を伝え終わり時間が余ったら、ヒントカ	○話し合いの流れのシナリオに沿って進める。班の人数は３～４名。 ○アドバイスが浮かばない班には、話し合ってほしい内容を書いたヒントカードを渡す。 ○スムーズに進む班には、校長先

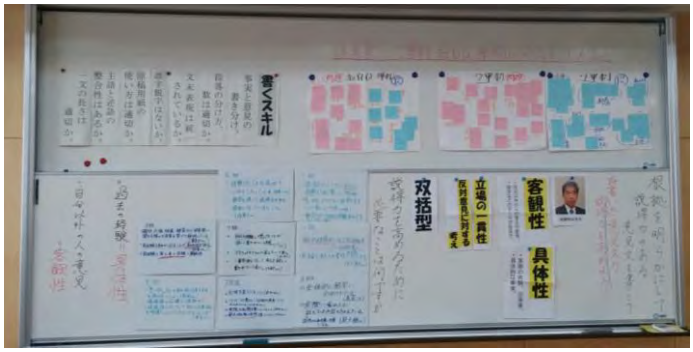
		ードの内容について話し合ったり、もらったアドバイスをもとに、自分の文章を読み返したりする。	生に読んでもらうという相手意識を再確認させる。 ・学校全体の視野でとらえる ・これから数年後の対処法も見据える ・言葉遣いなど ・個別支援が必要な生徒の学習状況を把握する。
20分	<u>4．どうすれば説得力が高まるのか分析しよう。</u>	○グループの中で、最も説得力があると思う意見文を一つ選びましょう。 ○選んだ意見文を読んで、説得力のある文章にするために、改めて必要だと思ったことは何でしょうか。各自でワークシートに記入してみましょう。 **◎説得力を高めるために必要なことは何ですか。班で考えをまとめ、ホワイトボードに書きましょう。** ・箇条書きでホワイトボードに書く。 ・具体的に誰の意見文のどの部分に書いてあるのかを明確にする。 ○いくつかの班に話し合いの内容を発表してもらいます。 ◇・反対の立場に触れている。 ・具体的な事実・経験が入っている。 ・自分一人の意見ではなく、客観的な数字を入れている。 ・意見だけでなく事実がたくさん入っていた。 ・双括式で書くと立場の一貫性が確認しやすく分かりやすかった。	【書】友達の意見文を参考に、説得力を高めるための工夫について理解しようとしている。 ［話し合い・ワークシートやホワイトボードへの記入］ ・ホワイトボードに書き込む際には説得力を高めるために必要な観点について意識させる。 ・全体で不足している要素、全体で確認したい要素について書いた班を数班指名し発表させる。ホワイトボードはすべての班の物を黒板に貼る。 ・発表の際は、具体的に誰のどんな点が良かったのかを発表させる。 ・出た意見について板書する。
5分	5．ふりかえりと次時の確認をする。	○今日の授業で、説得力を高めるためにどんなことに気をつけるとよいと思いましたか。今日の授業の振り返りを書きましょう。 ◇・具体例や数字を挙げることで説得力が増した。 ・反対の立場の意見にも触れることで説得力が増した。 ・双括式で書くと分かりやすいと思った。 ○次の時間からは、今日の話し合いを生かし自分の意見文をより説得力のあるものに仕上げ、相互評価をしていきます。	・自分の文に足りなかった点、友人の文で参考になった点、感想などを書き込む。説得力を高めるための観点を意識させる。

８．実践を振り返って

生徒の学びの様子

・生徒にとって身近で、経験に基づいたテーマを設定したことで、主体的に取り組む生徒が多く、書くことが苦手な生徒も含め全生徒が自力で意見文を完成させることができていた。
・同じテーマについての意見文を書いたことで互いの意見文へのアドバイスや、意見交換の際に活発な話し合いの様子が見られ、本時に至るまでの過程で「説得力を高めるための観点」への意識が高まり、「根拠」に関わる発言が多かった。
・根拠と理由の違い、客観的根拠と主観的根拠の明確な違いを把握できない発言や意見交換が見られた。

《授業の様子》



〇成果

・明確な課題を提示したことで、生徒の意欲が高まり全員が意見文を書き上げることができた。
・「具体性」や「客観性」の語句を生徒に浸透させることができた。
・一人では課題と向き合えないという生徒も、ペアや班で読んだり話したりする機会を設けることで、聞いたり教えたりする場面が増え、粘り強く課題に向き合う姿が見られた。また、互いの作品や文章を読みあう機会を増やすことで、上手な表現を真似して自分に取り入れようとする生徒がみられ、言葉の力を高めようという姿勢につながった。
・校長先生宛に書くということ、来年度以降の体育祭の組分けという実際に自分たちが直面する問題であるということの２点が生徒の意欲の喚起につながり、教科担任の評価だけではなく、校長先生に実際に読んでいただいての感想が生徒一人ひとりのもとに届いたことで、生徒に成就感や達成感が生まれた。

△課題

・「根拠」と「理由」を明確に分けて指導すべきであった。そうすることで「客観的」な要素と「主観的」な要素の違いにまで、生徒の考える意識を高めることができたのではないか。
・意見文のテーマが身近で書きやすいという反面、経験したことであるという点で主観的な内容でしか書けない生徒がいたため、生徒にどのような力をつけたいかのか明確にしたうえで、そのねらいを達成させるにふさわしいテーマ設定をする必要がある。
・何について学ぶのか観点や題材を明確にし、学び合うことで自分の「言葉の力」が高まったという感覚を持たせることが大切であり、それを生徒自身が実感できる機会を意図的に設けることが必要だと感じる。自分の考えを「絞る」のか、「深める」のか、「広げる」のか…、といった学び合うことで何を狙うのかを教師側が明確に持つ必要がある。

第３学年１組　国語科学習指導案

平成２９年１０月１８日（水）４校時
米沢市立南原中学校３年１組　３２名
授業者　須藤優

１　単元名
　説得力のある批評文を書く　～米沢観光ガイドブックの批評文を観光協会に送ろう～

２　指導目標
・対象となる事柄の良さや特徴を複数の観点から分析し、根拠を明らかにして、引用や仮定といった表現の工夫を用いながら批評文が書けるようにする。【書くこと】
・書いた文章を読み合い、説明の仕方や根拠について意見を交換したことを、自分の文章表現に生かそうとする態度を育てる。【関心・意欲・態度】

３　教材について
　本教材は、国語科学習指導要領第３学年「Ｂ書くこと」の指導事項（イ）『論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと』、（エ）書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること』に基づいて設定したものである。「批評」と「批判」は全く質の異なるものである。
　日常生活の中で、私たちはあらゆるものに対して、そのものの良い悪い、好き嫌いを判断している。しかし、好き・嫌いといった主観的判断に終始しているだけでは批評とは呼べない。自らの価値判断に対して、明確な根拠が伴って初めて、批判は批評へと近づいていく。「好き・嫌い」といった主観的な意見を越えて、物事を多角的に分析し客観的な根拠に基づいた理由を示していく過程は、今後進路実現に向けて自身の考えを他者に伝える機会が増え、卒業後には多様な情報や考え方に接しながら生活していくことになる中学３年生にとって、意義深いといえる。また、本単元は書いた批評文を実際に米沢観光協会に送って読んでもらうことをゴールとしている。批評文を書くことで学校を越えた社会に関わることができるという点で、生徒たち自身の書く目的が明確になり、意欲づけにもなると考える。
　説得力のある文章を書くうえで欠かせない要素に「複数の観点からの分析」「客観的な根拠に基づいた意見」が挙げられるか。また、分析の観点をどのように見出すか、意見をどのような表現でかけば、読む人に納得してもらえるか、といった工夫も必要である。本単元を通し、生徒が批評文の書き方について理解するとともに、
　①対象の特徴を複数の視点から分析し、明らかになった特徴に対する意見を述べ、その客観的な根拠を示すという手法を学ぶ。
　②引用や、「もしも～だったら」という仮定、他の対象との比較から分かる特徴を示す、といった説得力を生み出す表現の工夫について学ぶ。　以上の２点を重点的に指導したい。

４　生徒について

①　国語への関心・意欲・態度
　文章を読み、書き手の考え方やと自身の考えとを比べて、考えを述べることには比較的意欲的である。全体として言葉の表現に着目する意識が不足しており、文章表現の意図するところを考えることなく、自身の既存知識や印象から作品の内容を判断してしまう傾向にある。一方で、教え合うことへの抵抗感は少なく、他の人の意見を知りたい、より良くなる（良くする）方法を知りたい、と交流活動には意欲的である。

②書く能力
　書くことについては、3 学年では俳句の鑑賞文、人物像をまとめるといった作品に取り組んできた。基本となる構成を手本として示すことで、必要な要素を落とすことなく、形式を守って書くことができるようになってきている。一方で、読み手意識と語彙力が不十分なために、主観的な考えを述べるに終始する文章になりやすい点が課題である。

５　指導について

テーマ：生徒自身が、言葉の力の高まりを実感できる授業

視点Ⅰ　実社会とつながり、書く目的を明確にした課題設定

「観光ガイドブックの批評文を書き観光協会に送る」という課題を設定することで、書く文章には読み手がいることを意識させ、読み手が納得できる（＝説得力のある）文章を書く意欲づけを図る。批評対象となる観光ガイドブックは、作られた目的や対象がはっきりとしており、言葉や体裁、内容といった複数の観点から分析が可能である。また、3 種のガイドブックを比較させることで、『よねざわ観光ガイドブック』の特徴を見出す助けとする。個人の分析結果を交流しアドバイスする活動を設定することで、分析の視点や意見に対する根拠や改善点の妥当性を高め合う必要性と有効性を実感させる。

視点Ⅱ　考えの広がりや深まりを実感できる場の設定

①グループ活動の後は、各々のグループで生まれた気づきや学びを全体で共有する場面を設定する。以上のことに繰り返し取り組ませることで、学級全体で学び合う機会を作りながら「説得力」についての理解を深めていくことができるよう指導する。

②説得力についての理解を深め、自分や友人の文章表現や内容に視点をもって向き合えるようにするために、学習の終わりに、「今日の学習を通して、文章の説得力を高めるためにどのような工夫を用いたか。また、アドバイスを受けて、どんな工夫が必要だと学んだか。」について繰り返し振り返る。

視点Ⅲ　教科の本質に迫るつけたい言葉の力を絞る

学習の始めに、生徒たちの気づきからまとめた「説得力のある文章を書くために必要な要素（６つ）＊７．本時の指導に記載」を毎時間全体で確認する。相互評価活動では、この６つの要素の中から特に、本時で注目すべきものを絞って提示し、その観点に絞って互いに意見交換を行う。

６　単元の指導と評価の計画

時間	学習内容	学習活動	評価
1	単元の流れを知る 説得力のある文章に必要な要素	・学習課題を理解し、学習内容の見通しをもつ ・３つの例文を読み比べ、説得力のある文章に必要な内容をまとめる	○単元全体の見通しを持ち、批評文を書くことに意欲を持てる【関意態】 ○説得力を支える要素について理解する【書く】
2・3	観光ガイドブックの分析	・ガイドブックの目的や対象を知る ・ガイドブックを「内容」「体裁」「言葉」の３観点から分析する ・分析の内容をグループで紹介し合い、根拠の内容についてアドバイスを行う。	○「内容」「体裁」「言葉」の３つの観点から米沢観光ガイドブックの特徴を捉え、良さや改善点を客観的な視点で分析することができる。【書く】
4・5	批評文の下書き 互いの下書きに対する意見を考える	・米沢観光ガイドブックについて批評文を書く ・グループで批評文を読みあい、より説得力のある文章にするためのアドバイスを考える	○説得力を高めるポイントを意識して批評文を書くことができる。【書く】 ○友人の批評文を読み、説得力を高めるためのアドバイスを考えることができる【書く】
6本時	より説得力のある文章にするための意見交換	・書いた批評文にアドバスし合う。 ・説得力を生んでいる表現や工夫について意見を出し合う。	○意見を述べたりアドバイスし合ったりすることで、説得力を高める工夫について理解することができる。【関意態】【書く】
7	アドバイスを参考に下書きの修正 清書	・話し合いの中で得たアドバイスや気づきをもとに、自分の書いた批評文を修正し、完成させる。	○もらった意見を参考に、文章を推敲し完成させることができる【書く】
8	批評文の相互評価 学習のまとめ	・修正した互いの意見文を発表し、相互評価をする。 ・文章や話し合いの内容を振り返り、「説得力」について学んだことを整理する。	○客観的な根拠を示すことや改善策を具体的に示すことなどを意識したコメントを書き、説得力を高める工夫についての学習の振り返りを行うことができる。

7　本時の指導

（1）目標

より高い説得力が生まれ、読む人が納得できる批評文にするために、互いの文章に意見を述べたり読み返したりすることで、説得力を高める工夫を理解したり、理解を深めたりすることができる。（書く）

（2）指導過程

時間	学習活動　○主な発問　　□指示	・指導上の留意点　　◎評価（方法）
導入 5分	1　前時までの学習内容の確認 2　説得力を高める要素（6つ）を確認 □説得力のある文章を書くために必要なことは何だったか確認しましょう。 説得力のある批評文を書くために大切なポイント ★①複数の観点から分析している。 ★②客観的な根拠を述べている。 （面白い、楽しい…だけでは×） ③他のものと比較したり、「もし～だったら」と仮定したりしている。 ④引用がある。 ★⑤具体例や改善策がある。 ⑥読み手の立場になって書いている。（読み手意識）	・今回は特に★のついているポイント①②⑤に注目させ、アドバイスさせる。 ・原稿用紙の正しい使い方や、段落分け、誤字脱字については「推敲して文章を整える（教科書ｐ123）」にて指導済みである。紙面上で指摘させるのみにとどめ、本時では説得力を高めるための工夫に重点を置いて指導する。
	3　本時の課題と学習の流れを理解する。 □より説得力のある文章になるように、批評文の下書きに意見を述べ合いましょう。 互いの批評文にアドバイスをし合い、自分の批評文の説得力を高めるのに役立てよう。	・本時の流れを提示し見通しを持たせる。
	4　話し合いの方法を確認する。 □自分の書いた友達へのアドバイスを確認しましょう。 ・「もしも～だったら」と仮定して書かれているのが良い ・良いと考える理由が自分一人の思いではなく、納得できる（客観的）内容になっている。 ・改善策が具体的に述べられている。 ・「～が良い」「面白い」で終わっているから根拠をつける。 ・内容についてだけだから、他の観点の分析を加えるとよい ・改善策を加えると良い。「～～」という考えはどう？ □話し合いの流れを確認します。	・前時のうちに、本文に色線を引いたうえで良い点や改善点について意見を書かせる。 ・短い文で簡潔に記入させる。 ＊良い点＝赤 ＊アドバイス・改善点＝青 ＊誤字脱字、表記上の内容＝緑 で直接本文に書き込んでいる。

15分	５　アドバイスを受けて自分の下書きを見直す。 □アドバイスを班の人に配りましょう。もらったアドバイスを読んで、自分の批評文を見直しましょう。 ・もらったアドバイスをもとに、自分の下書きを修正、加筆する。	・必要に応じて班のメンバーと質問や相談をして良いことを伝える。 ・個別支援の必要な生徒や、話し合うのに支援が必要な班に重点的に指導をしながら、学習状況を把握する。
20分	６　最も説得力のある文章を選び、優れている点を挙げる。 **〇班の中で、最も説得力があると思う批評文を選びましょう。また、選んだ批評文についてなぜ説得力があるのか分析しましょう。** ・箇条書きでワークシート（班共有のもの）に書く。 ・具体的にどの部分の表現なのかを明確にする。 □いくつかの班に発表してもらいます。 ・「良い」だけでなく客観的な根拠がある。 ・改善策が述べられている。 ・他のものと比較して特徴を明らかにしている。 ・もしも～だったら、という文章があるから、読む人がイメージしやすい。	・説得力を生むポイントについて再度意識させる ・アドバイスされた内容を振り返らせる。 ・全体で確認したい要素や、不足している要素について挙げている班を意図的に指名する。（１～２つの班） ◎意見を述べたりアドバイスし合ったりすることで、説得力を高める工夫について理解しようとしている。 （話し合いの見取り・ワークシートへの書き込み）
10分	７　本時の振り返りをする。 □自分の批評文の説得力を高めるために、どんな点を修正したり、追加したりすると良いと学びましたか。ワークシートに書きましょう。 ・良い悪いだけでなく、客観的な理由をつけるとよい。 ・課題には改善策を詳しく書く。 ・内容だけでなく、ガイドブックの大きさにも注目して書く。	・自分の批評文に不足していた点、友人の批評文から参考にしたい点を書き込む。 ・説得力を高めるためのポイントを意識して書かせる。 ◎アドバイスや話し合いの内容を受けて、自分の批評文の説得力を高めるために修正・追加すべきことを明らかにできる。（ワークシートへの書き込み）

８　実践を振り返って　　成果（〇）　課題（●）

〇つけたい力を絞り込んで繰り返し確認や指導をしたことによって、生徒たちに考えさせたいことが伝わりやすくなり、生徒同士でアドバイスし合う活動でも、注目してほしい部分に気づき、考える場面が増えた。

〇指導したい事項を一方的に指導者が示すのではなく、参考文章を生徒たち自身が読み比べて「説得力のある批評文を書くために大切なポイント」まとめる時間を設定したことで、より一層生徒たちがポイントを意識して学習に臨むことにつながった。

〇「米沢市観光課の人に批評文を読んでもらう」というゴールを示したことが、書く目的意識につながった。

●根拠の客観性について、生徒が判断に迷う場面があった。指導者側も設定した題材にふさわしい根拠や客観性のあり方を想定して指導する必要性があった。

第２学年４組　国語科　学習指導案

平成２９年１２月１１日（月）　５校時
南陽市立赤湯中学校　２年４組　２９名
授業者　奥山　優美

１　題材　根拠を明確にして意見を書こう　意見文を書く
教科指導改善策の視点　テーマ　生徒自身が、言葉の力の高まりを実感できる授業

２　目標
（１）社会生活における出来事に関心を持ち、進んで自分の考えをまとめることができる。
（関心・意欲・態度）
（２）自分の見方や考え方を明確にし、適切な根拠を挙げ、構成を工夫して書くことができる。
（書くこと）
（３）書いた文章を読み返し、読み手が理解しやすい文章にするために推敲することができる。
（書くこと）
（４）構成や主語と述語の関係、接続詞の使い方などに注意して文章を書くことができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

３　指導にあたって
（１）題材について
学習指導要領では、第２学年の「書くこと」について、第１学年の「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」や「書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること」などを受けて、「構成を工夫して分かりやすく書く能力」を身につけさせ「文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる」ことが求められている。
本題材は、意見と理由・根拠を書き分けるだけの意見文から脱却し、意見を支える強い根拠を持つ意見文を書く力をつけることをねらいとしている。根拠を明らかにすると共に、反論を予想し、それについての対応を考えさせることで意見文としてより強固なものにさせたい。また、意見文を書いた後に互いの意見文を読み合い、評価したりアドバイスしたりする活動を取り入れる。それは、単なる感想ではなく、読み手を意識して書こうとする意識を持たせることに繋がると考える。視点を明確に持たせて他者の書いた文章を読ませることで、自分の書いた文章と比較し考えを広げようとする姿勢を身につけさせたい。“とりあえず書けばよい”“自分が分かればよい”から、“読んだ人に自分の考えが伝わるように書こう”とする意識を持たせたい。

（２）生徒について
これまで行ってきた「書くこと」に関する学習活動は、感想文や要約文、手紙、短歌の情景文などがある。しかし、思いや考えは持っていてもどう書いたらいいか分からない（「書くこと」に苦手意識を持っている）生徒や、語彙が乏しく繰り返し同じ表現を使ってしまう生徒、漢字や文法の誤りに対する意識が低い生徒が見られる。比較的、女子生徒の方が「書くこと」への抵抗感が薄い一方、男子生徒は、面倒くさがってできるだけ短く書いて済ませようとする（自分の内面と向き合い、じっくり考えることを避ける）傾向がある。自分の思いや考えをまとめたり表現したりすることに前向きな生徒との関わりの中で、伝えたり表現したりすることで自分自身を理解し共感してもらえる喜びを知り、読み手を意識して積極的に文章を書こうとする意欲を持たせたい。

（3）指導について

「書くこと」に苦手意識を持っている生徒も、文章を書ききったときの達成感を味わったり、自分の書いた文章を認めてもらったりする機会を増やすことで、少しずつ「書くこと」への抵抗感が薄らいでいくのではないかと考える。そこで、

◎書ききれるようにするための手立てとして

・書きやすいテーマの選択

・小グループで、互いの意見についての反論を考える場面

◎書いた文章を認め合うための手立てとして

・よい意見文への評価（シールで可視化）

・小グループで、観点を意識しながらアドバイスし合う場面

を設ける。

また、「テーマ：生徒自身が、言葉の力の高まりを実感できる授業」を達成するために、以下の三つの視点を意識して構成する。

視点Ⅰ　実生活とのつながりを考えた課題設定

「学校の図書室には漫画を置くべきかどうか」「電車やバスの優先席は必要か」「新年の挨拶は、メールがよいか年賀状がよいか」の三つのテーマを示し、書きやすいテーマを選ばせる。

視点Ⅱ　考えの広がりや深まりを実感できる場の設定

書いた意見文を読み合い、説得力のある文章に必要なことを考えたり、それらを踏まえてアドバイスし合ったりする場を設ける。

視点Ⅲ　教科の本質に迫るつけたい言葉の力を絞る

相互評価の際、記述面は除き、以下の内容面の観点に絞って読ませる。

・立場は明確で、客観的な根拠はあるか。

・反論を想定し、それについての意見が書いてあるか。

これらを単元の中に取り入れることで、生徒一人一人が目標を意識して活動し、言葉の力の高まりを実感できるようにする。

4　指導計画（6時間扱い）

時間	学習活動	支援・評価規準
1 2	・説得力のある意見文を書くためのポイントを確認する。 ・テーマを選び、情報を集める。 ・自分の立場を決め、根拠を絞る。 ・反論を想定し、それに対する考えをまとめる。	〈支援〉 ・作文を書いたり、説明的文章を読んだりするときに気をつけていることを挙げさせる。 ・小グループを作り、互いの意見についての反論を考えさせる。 〈評価規準〉 ・選んだテーマについて、自分の立場を明確にしている。（観察・ワークシート） ・友達の意見に対する反論を考えている。（観察・発言・ワークシート）

3 4	・構成メモを作り、下書きを書く。 ・書いた文章を読み、推敲する。	〈支援〉 ・構成の種類（双括型・頭括型・尾括型）を示す。 ・個々の力に応じてチェックする観点を示す。 〈評価規準〉 ・構成（双括型）や論の流れを意識し、正しい原稿用紙の使い方に従って書いている。 ・観点を踏まえて、書いた文章を推敲している。 （観察・ワークシート）
5 (本時)	・意見文を読み合い、説得力のある文章に必要なことを考える。	〈支援〉 ・名前を伏せて提示し、いいと思った文章を選ばせる。 ・多くの人に選ばれた文章と選ばれなかった文章との違いを考えさせる。 〈評価規準〉 ・観点を意識しながら、友達の書いた意見文を読み比べている。（観察・発言） ・説得力のある文章に必要なことを考え、自分の言葉でまとめている。(観察・発言・ワークシート)
6	・グループ内でアドバイスし合う。 ・再度自分の意見文を読んで推敲し、清書する。	〈支援〉 ・前時までの学習内容を踏まえてアドバイスさせる。 〈評価規準〉 ・交流を通して気づいたことや友達からのアドバイスを自分の文章に活かそうとしている。 （観察・ワークシート）

5　本時の指導

（1）題材　根拠を明確にして意見を書こう　意見文を書く

（2）目標　意見文を読み合い、説得力のある文章に必要なことを具体的に指摘することができる。
（書く）

（3）指導過程

過程	学習内容	教師の働きかけ（◎主発問 ○発問△指示・説明）	・予想される生徒の反応	◇つなぐ　○みとる ※指導上の留意点
導入（2分）	1　前時の振り返りを行い、本時のねらいを確認する。	△これまで、情報を集め、立場を決めて意見文を書き、推敲しました。 △互いの意見文を読み合い、説得力のある文章に必要なことを考えます。	・推敲のポイントを思い出している。	◇前時までの学習を振り返り、本時の学習へのつながりを意識させる。
	意見文を読み合い、説得力のある文章に必要なことを考えよう。			

展開（40分）	2　推敲の観点を踏まえ、他の文章を読む際のポイントを確認する。 3　意見文を読み合う。 4　説得力のある文章に必要な要素を考える。	○推敲の際のチェックポイントには、どんなものがありますか。 △書いた意見文を読み合い、いいと思った文章を選びましょう。 ◎シールが多かったものとそうでないものの違いを考えましょう。 △班を作り、意見を出し合いましょう。 △班ごとに、出た意見を発表してください。	・立場は明確で、（客観）的な（根拠）はあるか。 ・（反論）を想定し、それについての意見が書いてあるか。 ・観点を意識しながら読み比べている。 ・具体的な数値を挙げて根拠を述べているか。 ・論に一貫性があるか。（矛盾点がないか。） ・反論とそれについての考えが書いてあるか。 ・調べたことと自分の意見を区別して書いているか。	◇（　）内の言葉を挙げさせ、前時の学習内容を想起させる。 ※本時は内容面に絞る。 ※名前を伏せて提示する。 ※いいと思った意見文にシールを貼らせる。 ※どの部分なのか、具体的に指摘させる。 〈評価規準〉 ○説得力のある文章に必要なことを具体的に指摘することができているか。（学習プリント）
終末（8分）	7　本時の振り返りをする。	△他の意見文を読んで感じたことや考えたことを発表してください。 △次回は、今日の学習内容を踏まえてグループ内でアドバイスし合います。その後、再度推敲して清書します。	・自分の意見文は根拠が弱いと思った。もっと正確な情報が必要だと感じた。 ・根拠が曖昧だったり主観的なものだったりすると、読む人を納得させることは難しいと思った。 ・反論を想定して書くと、説得力が増すと思った。	※授業を通して感じたことや考えたことを自分の言葉で発表させる。

（4）評価

他の意見文を読んで、説得力のある文章に必要なことを具体的に指摘することができる。

6　実践を振り返って

○身近なテーマを複数示し、その中から各自書きやすいテーマを選ばせたことで前向きに活動することができた。

○構成メモを書く際に自分が挙げた「根拠」が妥当かどうか悩んだり、互いの文章を読み合う場面で、観点を意識しながら比較・検討したりする様子が見られた。

●型を示したりテーマを自分で選ばせたりしても、なかなか書くことができない生徒がいた。生徒一人一人の興味関心に沿って、“書きたい”と思えるような課題設定を工夫していく必要がある。